

研究・調査報告書

報告書番号	担当
2 1 2	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Risk factors for alcohol and marijuana use among adolescents in foster care. 養護施設での青年期におけるアルコールとマリファナ使用のリスク因子	
執筆者	
Thompson RG Jr, Auslander WF.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Subst Abuse Treat. 2007 Jan;32(1):61-9.	
キーワード	
アルコール摂取、マリファナ使用、養護施設、青年期、危険因子	
要 旨	
<p>背景： アメリカでは、25万人の青年が養護施設に居住している。彼らはこれまでの研究によると精神的、身体的、性的な虐待、無視、育児放棄、家庭崩壊、不十分な教育や反社会的行動歴など精神的な問題あるいは危険性のある行動を内包していることが多い。一般的に青年期における多くの問題はアルコールやマリファナから始まる薬物乱用によると仮定される。そこで本研究では養護施設の青年においてアルコールやマリファナ使用の個人および社会的リスクについて検討した。</p> <p>方法： 養護施設の15歳から18歳の青年男女のインタビューで調査を行った。4名の重篤な行動の問題を抱えている者、アフリカ系アメリカ人、コーカソイド以外の31名を除外した320名で解析した。人種差についての影響を除外するために、二つの人種のみで調査をおこなった。性、年齢、人種、多くの個人的社会的リスク因子について独立因子として解析を行った。</p> <p>結果： 調査対象の約40%の青年がアルコールを、36%がマリファナを、25%が両方をインタビュー前の半年以内に使用していた。ロジステック回帰モデルを使用して解析を行った。マリファナを使用する友人がいること、学校のずる休みがマリファナ、アルコールの使用および両方の使用と強い相関を示した。精神的、身体的、性的な虐待や無視などは薬物乱用と関係を認めなかった。</p> <p>結論： マリファナやアルコールなどの薬物乱用に対しては、学校のずる休みや友人のマリファナ使用など、青年期の弱さに対する対応が推奨される。</p>	